

新規評価箇所検討一覧表

番号	種別	事業区分	事業名	箇所名等 (路河川・地区名)	施工箇所			事業概要	評価			予算化等状況	総事業費 (百万円)	H24(25)年 度 事業費 (百万円)	公・単	完成 予定 年度
					市町名	旧市町名	町・大字 等		位置づけ	必要性・効果	実施環境					
1	街路	生活関連	地方特定街路整備 事業	大坪木須線	伊万里市		松島町	街路整備 L=630m、W=22.0m	A	B	A	I	1,170	103	公	H29
2	街路	生活関連	地方特定街路整備 事業	今津線	佐賀市		光2丁目	街路整備 L=100m、W=16.0m	A	A	A	I	86	86	単	H25

公共事業新規評価調書(整備系)

本部名	県土づくり本部	記入	まちづくり推進課	課長	田久保 松美
部名		責任者	伊万里土木事務所	所長	井手 昇

事業区分	整備系 (生活関連事業)	事業名	地区名等	総事業費	1,170百万円
		街路整備交付金事業 (社会資本整備総合交付金)	都市計画道路 大坪木須線外1線		
事業地			着工予定年度	完成予定年度	
伊万里市松島長地内			平成24年度	平成29年度	
事業目的			事業内容		
当該路線は、伊万里市の市街地北部を東西に横断し、国道202号と国道204号を結ぶ環状道路の一部を形成する重要な幹線街路である。その他、七ツ島工業団地や西九州道路へのアクセス道路としても位置付けられており、事業を実施することで、大型車輛及び通過交通の市街地への流入による交通渋滞の緩和や交通安全の向上を図る。			事業延長 L=610m 道路規格 第4種第1級 道路幅員 W=13.0(22.0)m 歩道幅員 W=3.5m×2 用地買収 A=13,265㎡ 家屋補償 n=5戸		
評価の視点	評価内容				評価
(1)位置づけ	県土づくり本部戦略(幹線道路の整備) (10点)				A (100点)
	・都市計画マスタープラン(県の都市計画マスタープランに位置付けられている:一般県道黒川松島線) (50点)				
	・都市計画道路の種類(幹線街路) (10点)				
	・地域の課題への貢献度(都市圏交通の骨格となる道路) (30点)				
(2)必要性・効果	・費用対効果(B/C) (3.3) [2.0以上~] (40点)				B (70点)
	・歩行者・自転車等の交通量 (50人/日) [歩行者500人/日未満かつ自転車500台/日未満] (0点)				
	・歩行者・自転車道の設置状況(設置されていない) (10点)				
	・幅広歩道自転車道の整備(3m以上~6m未満で整備する) (10点)				
	・電線類地中化等計画(上下水道等計画あり) (10点)				
(3)実施環境	・県民・市民との協働(提案型の事業) (30点)				A (80点)
	・まちづくりへの取り組み状況 (まちづくりのイメージが策定されている) (20点)				
	・地元関係者等の合意形成状況 (事業化に対する合意形成が図られている) (30点)				

評価	ABA	条件等
判断	I	
	優先的に事業を実施	

定性評価調書

○自然環境保全

内 容

※ 動植物の保護、農地の保全、山地・山間地の保全、水辺環境の保全等に配慮している事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○生活環境対策

内 容
大気汚染について配慮している事項(排ガス対策型機械の使用) リサイクルに配慮している事項(建設副産物の適正処理、再生材の使用)

※ 大気・水・土壌・地盤環境の保全、リサイクル、文化財、バリアフリー、周辺土地利用状況等に配慮する事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○コスト縮減策

内 容
現場発生材やクラッシュラン等再生材の有効利用 コンクリート二次製品の有効利用による工期の縮減

※ 再生材・発生材の使用等、具体的なコスト縮減策を記載。

○その他

内 容

※ 特に記述することがあれば記載。

公共事業新規評価調書(整備系)

本部名	県土づくり本部	記入	まちづくり推進課	課長	田久保 松美
部名		責任者	佐賀土木事務所	所長	西村 平

事業区分	整備系 (生活関連事業)	事業名	地区名等	総事業費	86百万円
		地方特定 街路整備事業	都市計画道路 今津線		
事業地			着工予定年度	完成予定年度	
佐賀市光一丁目地内			平成25年度	平成25年度	
事業目的			事業内容		
<p>当該路線は、県南部地域と市街地中心部を結ぶ幹線道路となっている。周囲には、学校施設等があり、朝夕の通勤通学時間は、自動車・自転車及び歩行者の交通量が多いにもかかわらず歩道が未整備で各々が輻輳し危険な状況となっている。</p> <p>このことから、歩道及び路肩の整備を実施し、円滑な交通及び通学路の安全性の確保を図る。</p>			<p>事業延長 L=100m 道路規格 第4種第2級 道路幅員 W=6.0(16.0)m 歩道幅員 W=3.5m×2 路肩幅員 W=1.5m×2</p> <p>上記幅員構成のうち、未整備である片側の歩道及び路肩を整備する。</p>		
評価の視点	評価内容				評価
(1)位置づけ	県土づくり本部戦略(生活に身近な道路の整備) (10点)				A (80点)
	点検計画(通学路:西与賀小学校、城西中学校) (50点)				
	緊急輸送道路又は観光ルート(第一次緊急輸送道路) (20点)				
	プロジェクト等(一) (0点)				
(2)必要性・効果	交通量(自転車歩行者交通量) 258人台/日 [100人台/日以上~] (60点)				A (85点)
	交通事故(近年(3年)の事故件数) 3件 [~3件以下] (5点)				
	歩道の状況(歩道無し、段差勾配要改善) 歩道無し (20点)				
(3)実施環境	地元状況(沿線住民の合意) 計画に対し協力的、用地買収のための調整済 (60点)				A (100点)
	集落施設、沿道土地利用(下記の沿道施設が3以上存在) ①集会場 ②中学校 ③小学校 〔城西公民館〕〔城西中学校〕〔西与賀小学校〕 (40点)				

評価	AAA	条件等
判断	I	
	優先的に事業を実施	

定性評価調書

○自然環境保全

内 容
自然環境保全に配慮し、道路線形は現道を利用した法線とする。

※ 動植物の保護、農地の保全、山地・山間地の保全、水辺環境の保全等に配慮している事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○生活環境対策

内 容
大気汚染について、配慮している事項(排ガス対策型機械の使用) リサイクルに配慮している事項(建設副産物の適正処理、再生材の使用)

※ 大気・水・土壌・地盤環境の保全、リサイクル、文化財、バリアフリー、周辺土地利用状況等に配慮する事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○コスト縮減策

内 容
現場発生材やクラッシュラン等再生材の有効利用 コンクリート二次製品の有効利用による工期の縮減

※ 再生材・発生材の使用等、具体的なコスト縮減策を記載。

○その他

内 容

※ 特に記述することがあれば記載。